



旋回性能も良好で、リアのトラクションもリアに掛けられるという。アンダーオーバーが説明すると、適度な弱アンダーを常にキープして、タイヤの性能を極限まで引き出すことができるそうだ。



タイヤの本庄サーキットでもかなりの速さを見せてくれた。おそろしくストリートでも、もっとハイスピードのコースでも、不快に感じることなく走りを楽しむことができるアットワークになっている。



スリーディーデザイン・サスペンションキット

3D Design Suspension kit for E90

ハシリヲカエル

©3D Design ☎03-6909-6612 http://www.3ddesign.jp/

とにかく楽しいスポーツスペック
330iの足がM3をも凌駕する

TEXT BY UI AKINORI / PHOTOGRAPHS BY SATO MASAKATSU

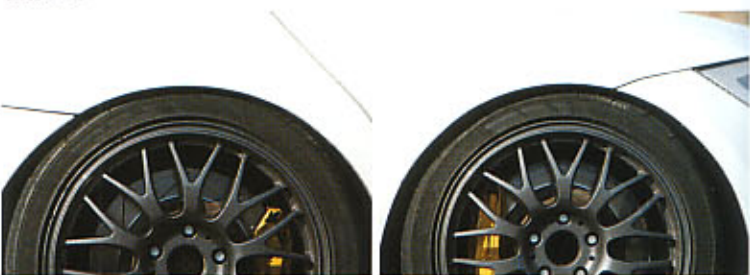
インプレッション・飯田 章選手
本誌飯田章選手が駆るレーシングドライバードライビングはまさに一級品。どんなBMWでもスポーツカーに変身させてしまう



PRICE
3D Design Suspension
車高調整キット
E90/E90M-Sports
¥344,400
ピロアッパーマウント
E90/E90M-Sports
¥61,950



ルックス的にはかなり低めにセッティングされているのが理解できよう。ただし普通のセダンだとあなどると、ワインディングでは置いて行かれるほどの潜在能力を備えている。コーナリングとブレーキングでは、同時に走っていたインプレッサを完全に凌駕していた。



ストロークが足りないのでは心配になるほどのクリアランスだが、実際にはまったく問題なく走ることが可能。姿勢変化が少なく、常に安定した操縦性を確保するアットワークだ。リア同様、十分なストロークを確保したフロント。前後とも直巻タイプのスプリングとしきじ式で任意に車高を調整可能。フロントにはオプションのピロアッパーマウントを装着

独自のアプローチでBMWをチューニング&カスタマイズする3Dデザイン。渾身の力作はE90用に開発した車高調式サスペンションキットだ。時間をかけて熟成させただけに、かなりの仕上がりと聞かされていた。最終スペック前に少しだけ乗った時点で、すでにスポーツサスとしての完成度はかなり高かったことを確認していた。かなり高いバネレートを使い車高そのものも低くセットしながら、嫌な突き上げ感はありません。ステアリングの入力にレスポンス良く応

えてくれ、かなり高いコーナリング速度をいとも簡単に実現してくれる。減衰力とバネレートが高い次元でマッチし、またロール量や速度が適正化しているという実感を持ったといえる。その最終型を、本庄サーキットで飯田選手がテストしてくれた。

「いやあ、とても楽しいね。330iでこんなに楽しめるとは思わなかったというのが本音だ。すごく良く仕上がっていて面白いクルマだったね。バランスが凄く高い次元でまとまっていて、ブレーキも良く

効くから申し分ない。パッと乗った感じだと、乗り心地も悪くない。だから逆に攻めると激しいのかと思ったけど、そんなことはまったくなかったよ。故意に縁石を使ってみても挙動が乱れないし、かなり高いレベルで仕上がっているのは間違いない。常に接地感が伝わってくるし、加速する区間ではしっかりとトラクションも掛かってくれるしね。バランスが良いこともあって、実にコントロール性が高いんだけど、それが楽しさにつながってくるんだ。本当に唐突なところがなくて、操

ることの楽しさを満喫できる。サーキットを走った感じだと、BMWというより国産ライトウェイト系の乗り味に近いかもしれない。ハイグリップなスタイヤを履いていないのにかなりグリップレベルも高く、これだけミニサーキットで速く走ることができるのだから、ポテンシャルが相当なレベルにあるのは確実だね」と、飯田選手はかつて無いほど絶賛。真摯に開発してきたサスキットだけに、その完成度はトップランクにあるといえる。



前後にブレンドの装着。ローター径は355φと345φだが後者の制動力を誇っていた。コントロール性も良く、回頭性の良さもありコーナリアプローチが速かったことは特筆モノ



ホイールは3Dデザイン製鍛造ホビーホイールで、サイズは前8J-18+39、後9J-18+46で前後に20mmのスペーサーを使用。タイヤはヨコハマADVANネオバAD07。225/40-18と255/35-18を使う